

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年11月30日現在

今月の重点活動

■新たなブランドづくり 各務原にんじんスイーツ 「にんじんの日」にデビュー

各務原人参ブランド推進連絡協議会は、11月24日を「各務原にんじんの日」に定め、この日、市内量販店において、東海学院大学生が考案し、市菓子組合事業者が商品化した、にんじんのケーキやクッキー等5種類のにんじんスイーツを販売した。商品は大人気で、昼過ぎには完売した。また、市内全小中学校では、にんじんの日を含む1週間の給食に、にんじん料理が提供され、にんじん産地の街として共有された。

人参ブランド推進連絡協議会は、各務原市特産のにんじんのブランド化、地産地消の推進を通して農業経営の安定・向上に寄与することを目的に、JAぎふ、各務原市、同市商工会議所、東海学院大学、同市園芸振興会にんじん部会、当事務所で構成されている。

農業普及課では、にんじん産地戦略会議をリードし、産地振興・ブランド化を目的とする産地振興計画策定、上記のような産官学連携活動、にんじん部会の産地づくり等を継続的に支援している。
(地域支援第二係・魚住雅信)



【並んだ5種類のスイーツ】

多様な担い手づくり

■担い手育成 平成29年度岐阜地域農業担い手情報交換会開催

10月31日、OKBふれあい会館において、管内の新規就農者や指導農業士、青年農業士、4Hクラブ員、関係機関等61名が参集し、「平成29年度岐阜地域農業担い手情報交換会」を開催した。

あらい社労士事務所の荒井代表から、「経営発展のための労務管理を考える」をテーマとする講演、青年農業士、新規就農者、岐阜就農応援隊代表から、それぞれの経験などを踏まえた事例発表があった。その後、農業経営や就農に関するキーワードを基に、5グループによる分科会を行い、情報・意見交換の結果を交換した。

また、障がい者農業参入チャレンジセンターから、「農福連携」に関する情報提供を受けた後、会場を移して有志による交流会を開催し、新規就農者と先輩農家である農業士や4Hクラブ員が、さらなる親交を深めた。
(地域支援第一係・山田和彦)



【分科会の様子】

■女性農業経営アドバイザー インスタ映えする写真レッスン開催

11月6日、農産物の宣伝に活かせるよう、地域情報誌制作会社の制作者を講師に、スマホ写真の撮り方講習が開催された。

LINEの機能の中にも、簡単に写真を修正できる機能があり、食品などは「おいしく」のフィルターを使ったり、LINE CAMERAやFoodieといった無料アプリによって、ひと手間で見栄えの良い写真にできることを学んだ。また講習会では、会員同士で撮った写真をLINEにより、プロジェクターを使わずに見せ合うことで感動を共有できることを学んだ。



【講習会の様子】

(地域支援第三係・飯沼清敏)

■えだまめ JAぎふえだまめ部会若手部研修会開催

11月6日、JAぎふえだまめ部会若手部の会員14名と関係者3名が、静岡県の(株)鈴生を視察し、鈴木代表取締役社長から、会社設立までの経緯や過去の失敗から学んだこと、経営方針、今後の目標等の説明を受け意見交換を行った。また大型えだまめ収穫機や9年前にJGAP認証を取得した同施設の運営状況を確認した。



【視察の様子】

参加した会員からは、同年代で意欲的な社長の話、「大変刺激を受けた」「やはり品質の良いえだまめを作ることが大切だと思った」等の感想が聞かれた。

農業普及課では、将来の産地を担う若手生産者の資質向上や雇成型経営体の育成に向けて今後も情報提供を行っていく予定である。
(園芸産地支援第一係・川部 知)

売れるブランドづくり

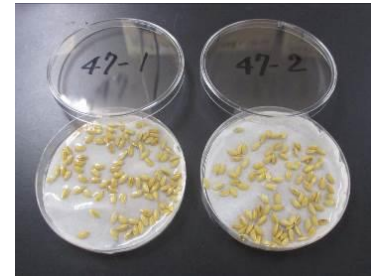
■水稲種子 「ハツシモ岐阜SL」生産物審査実施

羽島市では、水稲品種「ハツシモ岐阜SL」の種子生産を行っており、今年は曇雨天の影響もあり、昨年より10日遅い10月26日から11月6日まで収穫作業を行った。

農業普及課では、乾燥の終わった種子のサンプルを回収し、休眠打破処理を行った後、11月8日から発芽試験を開始した。

今年の籾は、細菌性の穂枯れも少なく、発芽率も問題なさそうである。発芽試験は、現在も継続中であるが、合格した種子は、美濃市の種子センターへ搬入され、精選された後、平成30年産用種子として使用される。

今後は、今年の種子生産を振り返り、次年度以降も良質な種子生産に取り組めるよう、栽培支援を行っていく。
(地域支援第二係・今井啓司)



【生産物審査】

■ブロッコリー 各地区で目揃会開催

11月2日、JAぎふ北方支店において、JAぎふブロッコリー生産連絡協議会が目揃会を開催した。出荷終盤まで品質を保つため、実際の収穫物を見ながら選別の徹底が図られた。今年度は、10月中旬からの長雨と2度の台風に苦労したが、今のところ形の良い花蕾が収穫されている。

農業普及課では、商品率の向上に向けて、収穫適期の見極めや今後の病害虫対策について指導した。

また、11月9日に丸北生産組合ブロッコリー部会、11月10日に川手ブロッコリー部会もそれぞれ目揃え会を開催した。
(地域支援第一係・稲葉千佳)



【目揃会の様子】

■いちご 平成29年産いちごの出荷開始

岐阜市園芸振興会いちご部会は、11月14日、岐阜市、本巣地域別に、いちご目揃会を開催した。JA全農岐阜から、果物全般に向けた市場情勢報告があり、今年産も昨年産と同様に良品いちごが出荷できるよう、JA担当者などから、出荷規格や注意事項についての説明が行われた。

農業普及課からは、来月に迫った来年産親株の栽培指導や低温期の草勢維持について指導を行った。今後は、厳冬期の栽培管理について指導を行っていく予定である。

(園芸産地支援第一係・三和浩一、西部真太郎)



【目揃会の様子】

住みよい農村づくり

■守口大根 抜き取り体験支援

11月19日、笠松町米野地内の守口大根生産ほ場において、愛知県の漬物業者「大和屋」主催による守口大根の抜き取り体験が開催された。

当日は、愛知県の家族連れなど26組82名が参加し、9月2日に播種した守口大根を収穫した。参加したほとんどの方が守口大根を抜くのが初めてで、生産者やJA、農業普及課の職員が折らずに抜くポイントを指導した。

また長さコンクールも行われ、158cmの守口大根を抜き取った方が優勝した。なお、ギネス記録は191.7cmである。
(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)



【守口大根抜き取り風景】